

様式1 令和6年度 山梨県立巨摩高等学校評価報告書（自己評価・学校関係者評価）

学校目標・経営方針		高い志と挑戦する気概を持ち、何事にも主体的に取り組む生徒を育成する。				山梨県立巨摩高等学校校長 武藤 一輝			
本年度の重点目標	1 自ら学び、自ら考え、実践する「巨摩スタイル」を推進し、自主・自立の精神を養い、未来社会を切り拓くための資質・能力を育成する。	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)		評価	4	良くできている。	
	B		概ね達成できた。(6割以上)		3		できている。		
	C		不十分である。(4割以上)		2		あまりできていない。		
	D		達成できなかった。(4割以下)		1		できていない。		
	2 個に応じた進路指導の充実を目指すとともに、学力の定着に努め実力の向上を図る。								
	3 部活動をはじめとする特別活動やボランティア活動のさらなる活性化を図り、コミュニケーション能力を培い、調和のとれた人格の育成に努める。								
	4 生徒の一生懸命な取り組みを評価・支援し、誇りと感動をもって学校生活を営めるような指導に努める。								

自 己 評 価						学校評議員による評価		
本年度の重点目標				年度末評価(令和6年11月25日現在)		実施日（令和7年2月19日）		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策	評価	意見・要望等
1	生徒の学力向上のため、「巨摩スタイル」の確立を目指す取り組みを強化する。	主体的・対話的で深い学びの実現と業務改善を目指したICTの活用を推進する。 「巨摩スタイル」の内容を精査・具体化し、生徒のやる気を引き出す「授業と評価の一体化」に取り組む。 生徒による授業評価を適切にフィードバックし、授業力の向上を図るとともに、実態に合った授業改善を行う。 面談等を通して、家庭学習時間や学習方法について個に応じた指導助言を行う。	管理職授業参観票 相互授業参観票 学校評価アンケート 授業評価アンケート 学校評価アンケート 授業評価アンケート 学習時間調査 スタディ・サポート	・アンケート結果からも授業方法の工夫・改善、「巨摩スタイル」の授業実践、公正・公平な評価、わかりやすい授業が展開されている。 ・全教員が自らの授業を継続的に点検し、指導の工夫改善を行っており、特に評価にあたっては規準を明確に示し、生徒の学習状況を的確に評価している。	B	・ICTを活用しきれていない授業もみられる。相互授業参観等の機会を通してICTの活用方法を学び、自らの授業に生かしていく必要がある。 ・1, 2年生にClassiを導入してICTを活用した教材利用、各自のペースでの解答、担任による学習時間の把握が可能となった。全教員が同じように便利な機能を積極的に活用できるようにしていくことが重要である。	3	・ICTの活用に際し教員間で優れたアイデアを出し合って共有し、工夫と改善により、生徒の成長・学力定着を促す授業を実践していただきたい。 ・教員の業務改善のためにも、今後もICTの活用を高度化し、教育・指導等の生産性向上を図ってほしい。 ・ICTの活用拡大とスキルの平準化が必要と思われる。
2	理数創造コースを中心に理数科学活動を学校全体で推進し、「最先端科学」と「地域」の融合を目指した探究的な学習を進める。	キャリアビジョン支援事業として、地域交流事業を企画運営し、主体性とコミュニケーション能力の向上を図る。 地域に根差した交流事業とするために、全職員で企画運営に当たり、行事の成功につなげる。 総合的な探究の時間などを利用し、自ら課題を見つけさせ、その成果を学校内外に積極的に発信させる。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート	・エネルギー研修、山梨大学との高大連携講座を実施し、最先端科学に触れることができた。 ・総合的な探究の時間での探究活動を通して地域の課題について考え、その成果を南アルプス市に提言することができた。	A	・櫛形山研修、わくわくアカデミーKOMaの活動を通して、知識やコミュニケーション能力が向上した。小学生に教えることで、「巨摩スタイル」の学びが実践されている。 ・理数創造コースの生徒の負担過多にならないよう注意が必要である。	4	・生徒が学校外での様々な取り組みを通して自ら考え行動する能力を養い、成長に繋がっている様子が窺える。また、それが地域における本校の存在価値を示すことにも役立っている。 ・櫛形山研修、わくわくアカデミーKOMaの活動は地域に広くアピールできる絶好の場で、「巨摩スタイル」が着実に実になっていると感じる。
3	進路目標実現のため、教科・学年・分掌・部活動等、学校全体が協調しながら、一丸となって指導を推進する。	生徒一人一人が高い目標をもち、その実現に向けて切磋琢磨できる学習環境を整える。 生徒の自己肯定感を高め、学校生活や進路の目標設定を適切に行えるよう指導する。 教師が率先垂範することで、生徒との人間関係を構築し、学校生活全般において適切な指導助言を行う。	授業評価アンケート 進路実績 学校評価アンケート 進路希望調査 学校評価アンケート	・Teamsを用いて、申し込みやすいようリンクを張ってオープンキャンパスや職業体験等を案内し、進路について考える機会を提供した。 ・自習室で快適に学習できる空間を提供したり、Classiの課題機能でスキマ時間を有効に活用できた。	B	・体験等の様々な行事への参加率がコロナ禍以前より低くなっている。担任や顧問からも働きかけていく。 ・進学指導について実践報告会を開催するなど、現状の良い流れを正しく引き継ぎ発展させていけるよう、ノウハウを全校で共有していく。	3	・生徒が自らの進路について真剣に考える「動機付け」に、連携して取り組んでいただきたい。 また、生徒が進路の目標設定を適切に行えるようサポート体制の充実を望む。 ・巨摩高生が社会人としての理想の姿を明確にして、今やっていることがどんな力となるのかをしっかりと伝えてほしい。
4	部活動・学級活動などの特別活動において、生徒が自己肯定感、充実感を持てるように自主・自立の精神を育成する指導を実践する。	部活動や学校行事など充実感や達成感を得られる多様な活動を推進する。 ボランティア活動などに意欲的に参加させ、視野を広げるとともに調和のとれた人格の育成を図る。 メンタルヘルスケアや特別支援教育について、教職員の共通理解のもと相談体制の充実を図る。 部活動活性化と教職員の負担軽減のため、部活動外部指導者の活用を進めていく。	学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校行事アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・生徒、保護者、教員による学校評価アンケートからは、全項目（部活動・学芸祭・ボランティア）で昨年度よりも高い評価（90%台またはそれに近い評価）である。 ・特別支援学校のスポーツボランティアやフードドライブの活動には全校体制で取り組んでいる。	A	・部活動と勉強のバランスを取るのに苦労している生徒や部活動をやめてしまう生徒がいる。部顧問には現状を踏まえた適切な指導助言を引き続きお願いする。 ・県高校総体では女子総合6位入賞を果たした。運動部・文化部ともに全国大会・関東大会への出場も多く、日頃の活動の成果を発揮できている。	4	・部活動が活発であることは、本校の長所、アピールポイントであり、生徒の充実感・達成感を促せるようなサポートを期待したい。 ・働き方改革や部活動改革に向け、部活動の中心を「人づくり・人間形成の場」「生徒の自主性や自己肯定感を育む場」「異年齢の集団形成の場」として、実社会に出たときに大きな力となるような活動を目指して頑張ってもらいたい。 ・教職員の負担は大きなものだと思いますので、過重なものとならないよう配慮いただきたい。
5	本校の特色や活動の成果を、あらゆる機会を通じて地域に発信・紹介し、信頼される学校づくりに取り組む。	学校説明会やオープンスクール、巨摩高だよりやHPを通して日頃の活動を広報する。 部活動を中心とした地域貢献事業を推進する。 地域や家庭と連携・協力し、防災教育・安全教育を実践する。	行事参加者アンケート 学校評価アンケート 行事参加者アンケート 学校評価アンケート 学校評価アンケート	・学校説明会は参加者から高評価を得た。オープンスクールは台風のため実施できなかったが、代替行事の部活動見学は好評だった。 ・広報誌発行とHP更新は定期的に行うことができた。 ・市の防災講習会や公安対策協議会に参加し、地域との連携を図った。	B	・部活動が盛んである強みを生かして中学生や地域に本校をアピールしていくことは可能で、中学生との合同練習や部活動体験等、気軽に参加できる仕組みを確立していく。 ・小中学生だけでなく、一般の方々も巻き込んだ地域交流事業を考えていく必要がある。	3	・本校の入学後の満足度は生徒、保護者ともに高いことが学校評価アンケートからも窺え、自信を持って地域の中学生、保護者に効果的な情報発信をしていただきたい。 ・防災に関しては南海トラフ巨大地震の発災確率も高まる中、極めて重要な取り組みであり、知識の付与に留めず、地域と連携した訓練の実施や富士山噴火への備えもお願いしたい。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。
学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。